

■ 学校林等利活用促進事業

「世界に1枚だけの卒業証書づくり」をめざして

鳥取市立青谷小学校 校長 渡辺 雅子

平成19年4月、青谷町内の5つの小学校が統合し、新生「青谷小学校」が誕生しました。しかし、3年間は、北校舎・南校舎の2つの校舎で1校という段階統合であり、ようやく本年度、完全統合となって、青谷町の小学生が1つの校舎で一緒に学ぶことができるようになりました。

しかし、校区が広がった関係で、直接出かけていって様々な体験をすることが難しくなっていました。そこで、学校林等利活用促進事業を活用させていただき、校地内にできるだけ青谷町の特産品を植栽しておこうと考えました。

特に、和紙の原料である三桧の栽培は、卒業証書を渡す際に、自分たちが育てたものを原料の一部として活用できるようにするために、最優先で取り組みたいことでした。三桧は、3年間で刈り取れるまでに成長するので、3年計画で植栽しておけば、毎年、自分たちが育てた三桧を使って卒業証書が渡けるようになります。本来は山の中で栽培する樹木ですが、何とか、校地内の半日陰に活きついてくればと、祈るような気持ちで事業に取り組みました。

11月30日に3年生56名が、三桧を一人1本ずつ植樹しました。「3年後には、自分たちが育てた三桧で世界に1枚の卒業証書を渡そう」と、はりきって植え付け作業を行いました。その他にも、椿、びわ、クヌギ、ミズナラ、コナラ、カシワを植え、「希望の森」づくりをスタートさせました。3年生を中心に全校のみんなで、苗木の成長を見守っていきたいと思います。



■ 地域緑化推進事業

～三朝キュリー公園（愛称）の誕生～

県内有数の温泉地である三朝温泉の玄関口にあたる、『大瀬歩危（ボーキ）』にこのたび、レンガ広場と花壇が整備されました。これは、日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターが、湯梨浜町方面地区に放置していたウラン残土を焼却して作成したレンガ2万個を用いて整備されたものです。

この地域を有する『みささ村地域協議会』は、これまで地域の景観を整備し、来訪される観光客を歓迎するため、プランターを利用した景観整備に取り組んできました。

今回、キュリー夫妻のブロンズ像が建てられたこの地を、町内の小学生から愛称を募集し、「三朝キュリー公園」と名付け、ツツジやアジサイを「緑の募金事業」の助成を受け、植樹したところです。

今後継続的に草刈り・剪定等の維持管理を行い、地域住民の環境保全意識の高揚を図りたいと考えています。

◆みささ村地域協議会の取り組み



■ 緑の募金交付金事業

～花苗が育む潤いのある暮らし～

三朝町高勢地区は人口約300人、約120世帯、8集落で構成されている地域です。この地域では『潤いのある暮らし、美しくきれいな集落づくり』のため、この地域を有する高勢地域協議会が、春と秋の2回花苗を配布しています。

配布された苗は、集落ごとにプランターや鉢に植栽し、バス停や公民館等に飾り人々の眼を和ませています。植栽は行うことが出来ても日々の管理が疎かになりがちですが、冬季の積雪の備え置き場を確保したり、見やすい場所に植栽を工夫する等、集落全体で積極的に取り組んでいます。

高齢化が進むこの高勢地域にとって「緑の募金交付金事業」を活用した花苗の植栽は、単なる景観美化というだけでなく、地域住民の交流になくてはならないものになっています。

今後もこの植栽活動を少しずつでも継続して行うことで、地域・集落・住民に潤いをもたらしたいと思います。

◆高勢地域協議会の取り組み



■平成22年 緑の募金事業

森林づくりの促進事業 ～森と水のコラボレーション～

丸山生産森林組合 組合長 奥田 英雄

丸山生産森林組合は、大山の裾野に広がる約78ヘクタールの広大な所有林を計画的に造林・管理しています。「緑の募金事業」では、環境省「平成の名水百選」の地蔵滝の泉に隣接する70アールを5か年計画で名水が湧く里山として整備を進め、水を育む森林の大切さを啓発するため森林保全、環境学習や交流・憩いの場として活かしていきます。

この事業には、平成の名水百選「伯耆町地蔵滝の泉」を守る会、大山横手道上ブナを育成する会や鳥取大学フィールドサイエンスセンターのスタッフの積極的な協力をいただいています。

初年の平成22年は、早春に約15アールの雑木や笹が生い茂った荒れ地を森林組合で伐採生地したのち、4月に協力団体やボランティアの方々約100人でクヌギ300本、オオヤマザクラ15本の植樹を行いました。ボランティアの中に子どもたちの参加があったことはとても嬉しいことでした。8月・10月に下刈り作業を行いました。8月は猛暑の中、岸本中学校2年生の職場体験学習の場として14人の生徒が滴る汗を拭いとりながら懸命に笹を刈払う姿に感動を覚えました。

私たちは今、美しい森、清らかな流れ、そこに集う心豊かな人々、そんな日本の原風景を創る活動を進めています。多くの方々のお力添えのもと、森と清流が織りなす素晴らしい自然環境と美しい風景を次世代に引き継ぐことは、私たちのロマンでもあります。



みどりの少年団交流集会

「みどりの少年団交流集会」は、子どもたちが森林の中での活動や相互交流を通し、緑を守る大切さや健全な育成を目的として、毎年実施しております。

平成22年は、8月9日～11日の2泊3日で、琴浦町の県立船上山少年自然の家において実施し、倉吉市北谷、琴浦町八橋、米子市淀江、車尾、箕蚊屋の5小学校みどりの少年団、総勢57名の参加となりました。

3日間とも天候に恵まれ、船上山少年自然の家の指導員の先生や引率の先生など多くの方々のご協力をいただき、予定していた日程をすべて滞りなく実施することができました。少年団の皆も元気に活動し、交流を深めることができたと思います。

1日目 ウッドクラフト

野外炊飯（すき焼き風煮込み）
星空観察

2日目 船上山登山

カヌー・イカダ、ダム湖渡り
キャンプファイヤー

3日目 森林作業（下刈り作業）



第21回緑の少年団全国大会（青森大会）に参加して

琴浦町立八橋小学校 教諭 三谷 昇

平成22年7月28日から30日の3日間、青森県の壮大な自然環境の中にある青森公立大学を主会場に、第21回大会が「ぼくたちが未来へつなぐ青い森」をテーマに開催されました。本校からは、5年生の女子2名が参加し、青森の子ども達をはじめ全国の子ども達と交流活動や共同生活を通じて、3日間にわたり少年団活動の大切さと楽しさを感じてきました。

今回の開催地が本州最北端の青森県ということで、前日から飛行機を乗り継ぐ長旅となり、また初めての全国大会参加で2人の子ども達もかなり緊張気味でした。会場に着くと、同じ制服で集まる全国の少年団の子ども達を見て、鳥取を代表しての参加であることを強く意識したようでした。

初日の記念式典は、全国からの参加者660名が一堂に会し、各県団旗入場で始まりましたが、この大役も2人はしっかり果たしてくれました。主催者などの挨拶、

地元の少年団活動発表やアトラクションもありました。特に目を引いたのが、地元の

「ヒノキアスナロ緑の少年団」のヤマネの観察調査など環境緑化の活動にとどまらない自然との共生活動を中心においた活動報告でした。午後から、三内丸山縄文遺跡の見学があり、広大な青森平野を見渡す台地にある遺跡に圧倒されました。その後、津軽地区・南部地区の2地区を10班に分かれての活動に入り、岩木山山麓にある宿泊先の岩木青少年スポーツセンターに移動し、遠くに「弘前ねぶた」のお囃子の練習が聞こえる夜を迎えました。



2日目の午前中は、小雨の中でしたが鰯ヶ沢町の「ミニ白神」での自然散策を行いました。世界遺産登録地「白神山地」のブナ原生林と「田山」として江戸時代から地元の人たちが禁伐林として守ってきた森林を地元のガイドさんと歩きました。木に登った熊の爪跡やキツツキの巣など、本当に自然が残っていなければ目に出来ないような姿に子ども達もびっくりしていました。午後からは、幻の魚と呼ばれる「イトウ」の養殖場の見学をしました。子ども達は、体長が1.5mもある巨大な魚に驚くと同時に、「森林と水のすばらしさがこの魚を育てている。」というお話を熱心に聞き入っていました。

最終日の閉会式では、この3日間の活動を振り返る体験活動発表がありました。全国の子ども達も同じ緑の少年団としてさまざまな取り組みをしていることを交流の中で学び、「見聞きしたことを友だちに伝え、自分達にできることをさらに見つけたい。」との意見を発表しました。最後に、全員でねぶた囃子にあわせてねぶたを跳ね、次の開催地である山梨県での再会を誓いながら、帰路につきました。



緑の少年団全国大会に参加して

5年 米田 彩乃

この大会に参加して、特に心に残ったことは、ミニ白神の森に行った時のことです。森の中は、風の通り道があり、空気がとても気持ちよかったです。ここにある木は、水を蓄えるために切ることが出来ません。雪が降り積もり、その重さに耐えながら、横に大きく曲がったまま成長した木も見ました。300年近くも生きている木や木の中が腐っても木の皮が栄養を運んでいる木の姿も見ました。木の香りや根の広がりを見たとき、この森の木が大事に守られていることが良くわかりました。木の中には、熊が爪を立てて引っかけた跡やキツツキの巣の穴もありました。今私がいるこの森の中に、たくさんの生き物がいて、森の中から私たちを見ているのだと思いました。それから、まぼろしの魚「イトウ」を見て、川にすむ生き物達も、落ち葉や虫、森からのたっぷりな栄養を取って生きていることがわかりました。森が健康であり続け、川がその栄養をしっかりと運んでいることが、とても大事だとわかりました。私たちの住む琴浦町にも、山・川・海があります。この自然をもっと大事にしたいために、自分が出来ることをみんなと一緒に考えていきたいと、この大会に参加して強く思いました。

5年 豊嶋 みのり

青森県であった緑の少年団全国大会では、たくさんの経験が出来ました。全国にたくさん緑の少年団があることも初めて知ったし、いろいろな活動をしていることもわかりました。開会式では、少年団の旗を持って入場しました。緊張したけど、うまく出来たと先生にほめてもらいました。三内丸山遺跡では、縄文時代に出来たといわれるお墓や住まいの建物、土器などもたくさん見ました。バスで移動しているときに、とても広がりんご畑を通りました。りんごのお土産がたくさんあるわけがわかりました。宿舎の岩木青少年センターでは、同じ班の山梨、滋賀、香川、島根、青森の人たちとすぐ仲良くなり、ゲームをしたり押し花作りをしたりしました。ミニ白神の見学では、木の中を流れる水の音を聞いたり、熊の爪あとを見たりしました。イトウや金鮎の養殖場では、何万匹もの稚魚が泳いでいる姿にびっくりしました。閉会式では、体験活動の発表があり、私は白神の森での活動を発表しました。最後に、ねぶたの鈴をつけてみんなで踊りました。この大会に参加できてとてもよかったです。

■ 緑と水の森林基金事業

木工工作キット配布事業

子どもたちに森林や緑の大切さ、木材の良さ等を知っていただくことを目的に、小中学校を対象に「木工工作キット配布事業」を本年度も実施しました。

本年度は14小学校、8中学校を対象に本立てキットやスギ板を配布し、実施報告が届いております。

マイ本立てを作った子どもたちの感想は、釘を打つ難しさや電動糸鋸での加工の楽しさ、サンドペーパーを使って仕上げた木肌の触感、絵を描いて自分だけの本立てを仕上げた満足感、大切に使っていききたいなどつつられています。

また、技術家庭科授業で作成した木のおもちゃを、赤ちゃんにプレゼントされ、「赤ちゃんとお母さんに喜んでもらえた」と生徒さん達も喜ばれています。

この事業が、子どもたちの緑を大切に作る心や木材への関心に繋がることを期待したいと思います。



“木のおもちゃ” 作成風景



“赤ちゃんふれあい会” でプレゼント

■ 喜寿記念樹贈呈事業

長寿をお祝いし、緑を育てることの大切さを次代に引き継いでもらうための「喜寿記念樹贈呈事業」を本年も実施しました。昭和9年生まれの方（77歳）を対象に募集し、55名に贈呈しました。

記念樹は「紅梅」の樹高80cm 程度のもので、喜寿記念樹の文字をあしらった段ボール箱に箱詰めし、10月5日に発送しました。

写真は記念樹を受け取られた方のお一人です。喜寿を迎えられた豊富をお聞かせいただくと共に大変喜んでいただきました。



■ 第34回全国育樹祭が群馬県で開催される

第34回全国育樹祭が平成22年10月3日（日）群馬県沼田市、利根郡川場村の群馬県立森林公園「21世紀の森」で開催されました。

「樹の息吹 育ててつなぐ 地球の未来」を大会テーマに、県内外の緑の少年団や林業関係者約6,000人が参加して実施され、午前の式典では、西岡大会会長（参議院議長）及び群馬県知事の主催者挨拶、群馬県議会議長の歓迎の言葉に続き、皇太子殿下から「森林を守り育てる活動の輪が、ここ群馬から全国へ、世界へ広がり、そして未来へと継承されていくことを切に願います」とのお言葉がありました。続いて、緑化功労者表彰や、みどりの贈呈があり、その後、皇太子殿下が、平成10年に同所で開催された全国植樹祭で、天皇、皇后両陛下が植栽されたスギ、ヒノキの手入れ（枝打ち、施肥）を行われました。

続いて、みどりの少年団活動発表、誓いの言葉、アトラクション（群馬自然との共生「四季」）のあと、「国民参加の森林づくり、循環型社会の実現、森林づくりを担う青少年の育成」をうたった大会宣言を採択。来年度の全国育樹祭を奈良県に引き継いで大会が終了されました。

また、2日～4日の間に併催行事の緑の少年団活動発表大会、育林交流集会、森林・林業・環境機械展示実演会が開催され、多くの方が参加していました。



■ 緑の募金贈呈式

緑の募金贈呈式が県議会議長室で行われました。

9月24日、株式会社イブキ伊吹直社長様より小谷理事長に贈呈されました。イブキブランド鶏卵パックのラベルに「緑の募金」ロゴマークを付け、その

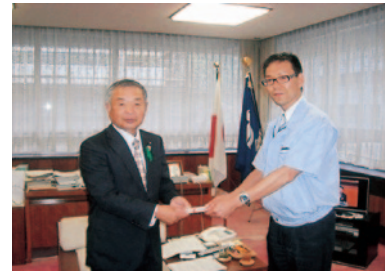


売り上げの一部を「緑の募金」として寄付されたものです。ありがとうございました。

12月1日、株式会社新日本海新聞社田中仁成執行役員営業局長様より小谷理事長に贈呈されました。7月、10月の「緑の募金

キャンペーン」にちなんだ紙面掲載した「森林保全に関する特集記事」の一部を、県内の緑化事業に役立ててもらおうと寄付されたものです。ありがとうございました。

田中仁成営業局長様より小谷理事長へ



伊吹直社長様より小谷理事長へ

また、今年前半の4月9日には、鳥取ライオンズクラブの谷尾、野村、下石の3名様にご来庁いただき、農林水産部長室において、鹿田副理事長（農林水産部長）に贈呈していただきました。これは、鳥取ライオンズクラブの事業を81名の会員で行った際に「緑の募金」を実施し集まったものを贈呈していただいたものです。ありがとうございました。



皆様に頂いた貴重な「緑の募金」の浄財は、県内の地域や学校などの緑化事業に有効に使わせていただきます。

鳥取ライオンズクラブ様より鹿田副理事長へ

■ 緑の募金高額寄付者感謝状贈呈

今年度の緑の募金高額寄付者に12月17日、小谷理事長より県議会議長室で感謝状が贈呈されました。

感謝状を受けられた方は、団体で三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社様、個人として有田寿行、大原明伸、寺坂安雄、安田知章様の計1団体、4個人です。

三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社様は、県内の緑化に協力するため、毎年、会社を挙げて「緑の募金運動」を展開され、職員の方々から「緑の募金」を募り、多額の寄付をさせていただいております。また、個人は4名とも県の林業関係職員OBで、長年にわたり森林の整備や緑化の普及に関わってこられ、平成22年3月に退職されたことから、これを記念し、県内の緑化に役立ててもらおうと、緑の募金に高額の寄付をされたものです。



三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株)
麻木哲夫総務課長様



寺 坂 様



大 原 様



皆様から「緑の募金」としてご寄付いただいた大切な浄財は、緑の募金の趣旨に則り、私たちの周りの緑環境の改善等有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

■ 平成22年度「森の名手・名人」の認定

森林の文化や技術の伝承を目指す“もりのくににつぼん運動”の一環として社団法人国土緑化推進機構が認定する平成22年度「森の名手・名人」に、鳥取県からは森づくり部門の樵として鳥取市用瀬町の長戸孝行さん、同じく森づくり部門の苗木生産として八頭町の藤原真澄さんが認定されました。

認定証は10月8日、県議会議長室で小谷理事長より伝達されました。

長戸孝行さんは長年木材の伐採に携わり、特に大径木の伐採や吊り切りの技術にすぐれ、県内だけでなく県外からも多くの依頼が来るなど忙しい毎日を送っておられ、最近では隠岐の島や名古屋まで出かけて活躍しておられます。

藤原真澄さんは、先代からのスギ、ヒノキ、マツ、クスギの苗木生産に加え、それ以外の緑化用苗木（広葉樹10種ほど）の生産を手がけるとともに、鳥取県山林樹苗協同組合理事長として組合員の苗木生産指導に努めておられます。また、2人とも後継者育成に力を入れておられ、技術の伝承が期待されます。

（森づくり部門） 長戸孝行さん



（森づくり部門） 藤原真澄さん



■ 中国・四国地区緑化功労者が決定

平成22年度中国・四国地区緑化推進協議会（会長野田斉）より、地域の緑化推進に特に功績があった者（個人又は団体）7組が、中国・四国地区緑化功労者として表彰されました。

鳥取県関係では、特定非営利活動法人賀露おやじの会理事長藤田充様が受賞され、12月1日（水）県議会議長室にて小谷茂理事長より表彰状が伝達されました。

藤田充様は平成9年賀露おやじの会を設立、毎年子ども達の環境学習等を開催。また、平成14年、同会をNPO法人化し、森林ボランティアの技術者養成研修会や、間伐体験、枝打ち体験、緑と水のふれあい体験、森の健康診断、環境関連フォーラムや学習会等、多くの森林保全・緑化・環境関連の事業を企画、実施してられました。

また、平成18年には「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」の鳥取県ブロック代表団体となり、平成22年同ネットワークと共催で、鳥取・島根両県を対象とした「森林ボランティアのための心理調査とチェーンソーを使った伐木、造材、搬出研修会」を実施。子ども達を含めた多くの参加者に、森林や林業の重要性、自然や地球環境の大切さ等の認識が大きく広がっていました。



賀露おやじの会理事長藤田充様

■ 自動販売機で緑の募金 ～ダイドードリンコ株式会社～

ダイドードリンコ株式会社様による「緑の募金自動販売機」が設置されています。これは、売上金の一部が緑の募金として寄付される、というものです。

是非、多くの皆様に知っていただき、ご協力をお願いするとともに、設置を検討していただけたところがありましたら、当委員会まで申し出ていただけるとありがたいと思います。

■ 国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール

鳥取県と共催で実施した「平成23年度用国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール」鳥取県予選は小学校の部3校16点、中学校3校50点、高等学校1校1点の応募があり、10月7日審査の結果、次の方々が受賞されました。

なお、鳥取県知事賞、鳥取県教育委員会教育長賞及び社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞は、社団法人国土緑化推進機構の実施する中央審査に応募しました。

その結果、宝木小学校2年生の田村理桜さんが社団法人国土緑推機構理事長賞にみごと入選されました。
来年もご応募をよろしくお願いいたします。

〈敬称略〉

区 分	小学校の部			中学校の部			高等学校の部		
	学校名	氏 名	学年	学校名	氏 名	学年	学校名	氏 名	学年
鳥 取 県 知 事 賞	宝木小学校	アンドウ アズ サ 安藤 梓紗	2	気高中学校	シゲヤマ サツキ 重山 咲月	1	倉吉東高等学校	ヤマダ ハルカ 山田 華加	1
鳥取県教育委員会 教 育 長 賞	渡小学校	マルヤマ モエ カ 丸山 萌花	1	気高中学校	ナカガワ チ カ 仲川 知花	2	該当なし	—	—
(社)鳥取県緑化推進 委員会理事長賞	宝木小学校	タムラ リ オ 田村 理桜	2	気高中学校	ヒガシダ ア ス カ 東田明日香	2	該当なし	—	—
佳 作	西郷小学校	コジマ コエ 小島えるな	5	気高中学校	アラオ ル リ 荒尾 瑠里	3	該当なし	—	—
	—	—	—	用瀬中学校	フジワラ タカエ 藤原 貴恵	3	—	—	—
	—	—	—	気高中学校	タナカ チハル 田中 千春	1	—	—	—



国土緑推機構(理事長賞)
宝木小学校 2年
田村 理桜



小学校の部(知事賞)
宝木小学校 2年
安藤 梓紗



中学校の部(知事賞)
気高中学校 1年
重山 咲月



高等学校の部(知事賞)
倉吉東高等学校 1年
山田 華加

会員募集のお願い

(社)鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源として、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された団体です。

本委員会の組織運営は、正会員(県、市町村、団体、個人)及び賛助会員(企業)の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同いただける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費 : 個人・団体・企業 一口 1万円

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220
(鳥取県農林水産部森林・林業総室内)

(社)鳥取県緑化推進委員会

電話 : 0857-26-7416

FAX : 0857-26-7308

URL : <http://www.tottori-green.or.jp>

非常勤職員の紹介

当委員会の公益社団移行認定申請や平成25年に予定されている第64回全国植樹祭に向けての、みどりの少年団の育成に関して事務量が多くなってきたことから、県のご配慮により緊急雇用創出事業を適用していただきました。

非常勤職員名 : 古賀 瑞穂(12月1日) よろしく申し上げます。